

■ 全国初の穀物輸入拠点の完成

「国際バルク戦略港湾 釧路港国際物流ターミナル完成式」の開催

北海道開発局 釧路開発建設部 築港課

平成30年11月23日(金・祝)釧路市観光国際交流センターにおいて「国際バルク戦略港湾 釧路港国際物流ターミナル完成式」を港湾管理者である釧路市、荷役機械の整備主体で埠頭運営事業者の釧路西港開発埠頭株式会社、岸壁や泊地の整備主体である北海道開発局釧路開発建設部の共催により開催しました。

同ターミナルは、とうもろこし等の飼料原料を満載にした大型船の入港を可能とし、大型船での大量一括輸送による効率的な輸送体系の実現を図ることを目的に、平成26年度より岸壁(水深14m)などの整備に着手し、平成30年3月には岸壁本体が、11月に埠頭運営事業者による荷役機械が完成しました。

完成式には、塚田一郎国土交通副大臣、前国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員、伊東良孝衆議院議員、鈴木貴子防衛大臣政務官、繁本護衆議院議員をはじめ、飼料穀物の主要生産国から在札幌米国総領事館のロバート・ピケット領事や地元農業関係者など、多方面より約150人が出席しました。

式辞では、主催者を代表して港湾管理者の蝦名大也釧路市長が「国際バルク戦略港湾として全国初となる穀物の輸入拠点の完成により、物流コストの低減などの整備効果は、東北北海道だけではなく、広く全国への波及する」とアピールしました。

続く挨拶では、塚田副大臣が「釧路港をファーストポートとして、大量一括輸送が実現し、安定的で効率的な飼料穀物の供給体制が構築される。これを第一歩として我が国全体としての安定的かつ効率的な海上バルク輸送網の形成に全力で取り組む」と述べました。

また、祝辞では、前国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員が「釧路は、世界の北海道として伸びゆく地域であり日本の台所。世界は物流の変化の渦中、バルクの完成で、釧路が益々発展することに期待」、伊東良孝衆議院議員が「繁本先生とともにバルク政策を進めてきた。本日は非常にうれしい。バルク完成により道東、北海道の皆さんが良くなることを祈念」、鈴木貴子防衛大臣政務官は「市民の総意の元でこの整備が行われた。完成したバルクを我々が知恵を出して、地域を発展させることが重要」、繁本護衆議院議員が「今日は感無量。7.3万の署名が集まった国家プロジェクトは初めてであり、本来の国家プロジェクトのあるべき姿」

と述べ、地域一丸となって実現したバルクの完成と、今後の更なる発展に期待を示しました。

その後、飯田釧路港湾事務所長から、工事着手から完成までの映像をまじえた「事業概要報告」を行い、さらに、飼料ユーザーである畜産・酪農家と飼料穀物輸送者を代表して、安田全国農業協同組合連合会常務理事が「釧路港が北海道はもとより、日本の農業にとって益々重要な役割を果たす」と述べるとともに、飼料穀物の生産者を代表して、アメリカ穀物協会よりビデオレターが届けられ「釧路港は、アメリカにとっても重要なみなとだ」と釧路港への期待を示しました。

最後に来賓や関係者によるテープカットを執り行い、完成を祝いました。



完成式の様子



テープカットで完成を祝う



完成した西港区第2埠頭地区国際物流ターミナル